

## 特養の壁を壊して、地域の庭に!!!!!!……神奈川県愛川町「ミノワホーム」の挑戦



「介護男子スタディーズ」のリーダーとしても知られる馬場拓也さん（赤シャツの男性）が常務理事をつとめる神奈川県相川町の特別養護老人ホーム「ミノワホーム」の塀が2016年8月、ハンマーで打ち砕かれました。

同じ神奈川県相模原の「やまゆり園」で、1カ月前に19人が殺害され、「施設に監視カメラを」とお役所が通達したりするさなか。それに真っ向から逆らう「快拳」でした。

この「特別養護老人ホームと地域との距離を縮めるプロジェクト」がスタートしたのは、2016年2月。集まったのは、さまざまな特技をもった次のような若手たちでした。

- ・メンバー 建築家金野千恵さん（日本工業大学 助教） 相模原市出身  
ランドスケープデザイナー 徳光充子さん 横浜在住  
妻鹿ふみ子さん（東海大学健康科学部 教授）  
東海大学健康科学部 社会福祉学科 妻鹿研究室の学生さん  
日本工業大学工学部 生活環境デザイン学科 金野研究室の学生さん  
社会福祉法人愛川舜寿会ミノワホームスタッフたち

### 4月 「ぼくらの庭を考えよう」ワークショップ

- ・AM 学生たちが自由な発想で思い描く「庭」を議論。  
空間とグリーンデザインの専門家が助言
- ・お年寄りとお昼ごはんを一緒に食べながら聞き取り
- ・PM 模型や絵を作成、チームごとにお年寄りにプレゼン。
- ・クロージング デイサービスのお見送り

6月 基本設計完了 施工業者選定

7月 津久井やまゆり園事件!!!!!!

8月 アクションと思想発信のパフォーマンスとして、ハンマーで壁崩壊。

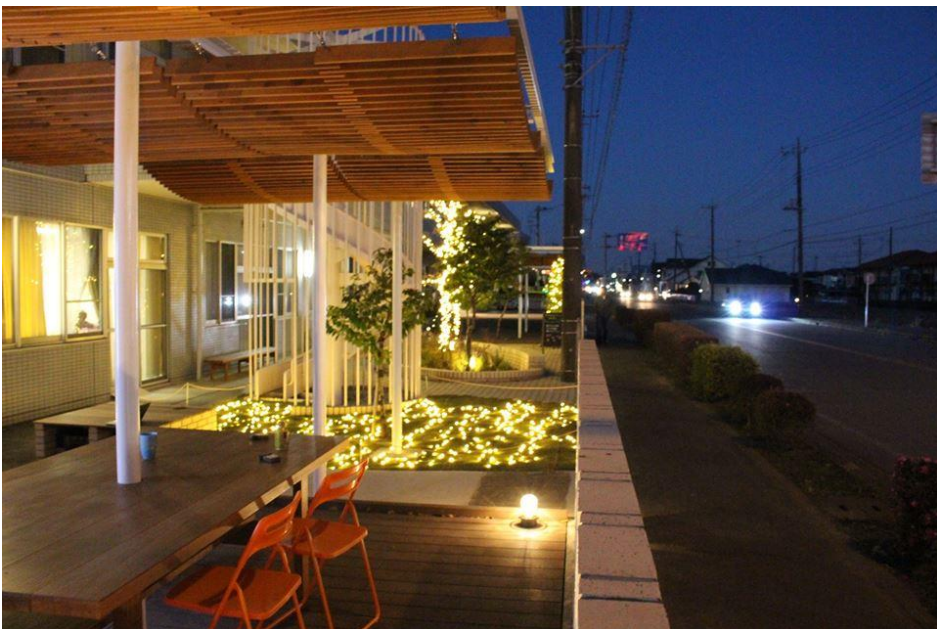
10月30日 地域の人を招いて「庭びらき」イベント

ココファームのワインと「恋する豚研究所」のハムとバンドでおもてなし。

楽しい創造、楽しい成果、「庭空間」という成果物を、建築を学ぶ大学生が実践する機会の提供。  
設計のテーマは、「誰もが座れる庭」。「ミノワ・座 (THE) ・ガーデン」と名付けました。

庭スペース概要は

- 1 座・ダイニング・・・大きなダイニングテーブルとパーゴラで、  
ごはんやお茶を飲める場所（自販機設置）
- 2 座・かまど・・・普段はベンチだれど、木製の座面を取るとかまどに。  
災害時の炊き出し、BBQ に活用
- 3 座・フラワー・・・ひょうたん型の花壇。  
車椅子がラウンドしやすい形状と煉瓦積みのベンチのある花壇



4 座・アズマ・・・東屋。シンボリックなパーゴラでくつろげるウッドデッキ。

5 座・ファーム・・・8メートルの畑。

車椅子やベンチに座ったまま土いじりが可能。

土の高さを座った時のテーブルの高さに設定。立ったままの姿勢でも腰を曲げることなく作業可

日本工業大学の学生が製作した長さ9メートルの縁側ベンチ。一直線に人が座ると面白い。

一部既存の植栽を残し、昔と今の融合を試みました。。

これまでは、壁の外・壁の中という空間の「隔たり」があった歩道。

今では境界線がなくなったことで「視線」「動線」「精神的距離」これまでにない人と人の偶発的なコミュニケーションを生む空間となっています。

犬の散歩コースであり、通学コースであり、夜の散歩コースでもあることから、「イルミネーション」で地域の人々が立ち寄るしかけもつくりました。







これからの地域と福祉施設をつなぐ「自然なグラデーション化された距離感」を「地域と施設」という線引きの曖昧さをつくることで、地域の目が向くしかけをしていくそうです。

津久井やまゆり事件から始まった「壁を高め、防犯強化する」という動きは、「高まる孤立」というリスクをはらんでいます。

「地域との信頼関係」という言う名のセキュリティがこのプロジェクトの思想です。